

高度人材育成事業 自己点検・評価報告書

令和 7 年 6 月

筑波大学 分野融合型数理・データサイエンス・AI（MDA）教育推進・監理委員会
筑波大学 高度人材育成運営委員会

◆自己点検・評価を行った日時

■ 自己点検

組 織：高度人材育成運営委員会

日 時：令和 7 年 6 月 11 日（水） 10：00～11：00

■ 評価

組 織：MDA 教育推進・監理委員会

日 時：令和 7 年 6 月 20 日（金） 15：30～16：30

◆評価体制について

MDA 高度人材育成運営委員会は、本事業の運営の中心的な役割を担っている。一方、MDA 教育推進・監理委員会は、MDA 教育推進室の業務の監理、当該業務を推進するに当たって必要となる助言及び関連組織との円滑な連絡調整を行うことを目的としている。上記を踏まえ、本事業（MDA 高度人材育成事業）は毎年度、MDA 高度人材育成運営委員会により自己点検を行い、MDA 教育推進・監理委員会により評価を行うものとする。

◆自己点検・評価における各視点

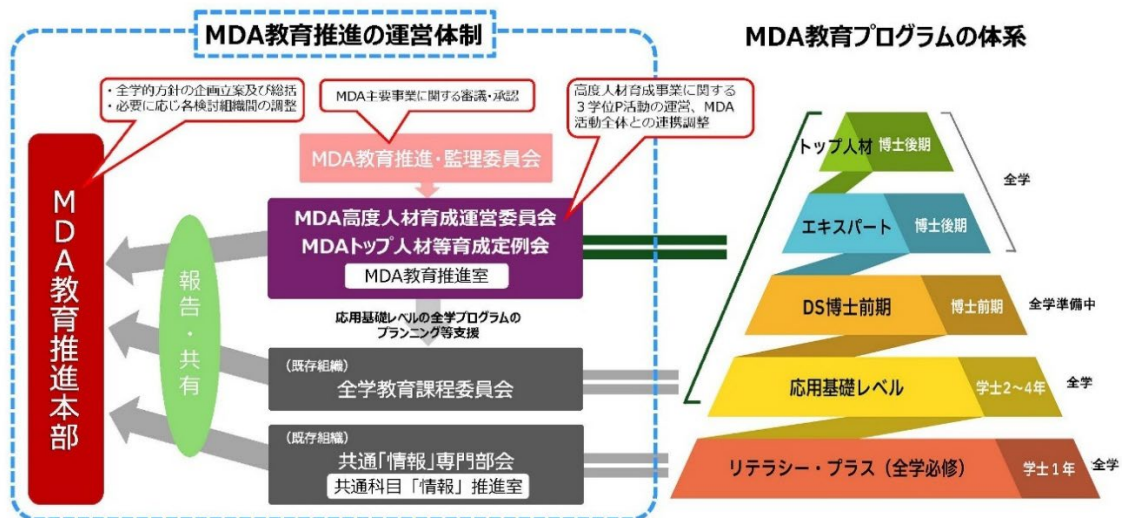
1) 運営体制・ガバナンスが明確に構築され、意思決定や責任体制が適切に機能するとともに、教育・研究・運営に必要な教職員が適正に配置されているか

【現状・自己点検】

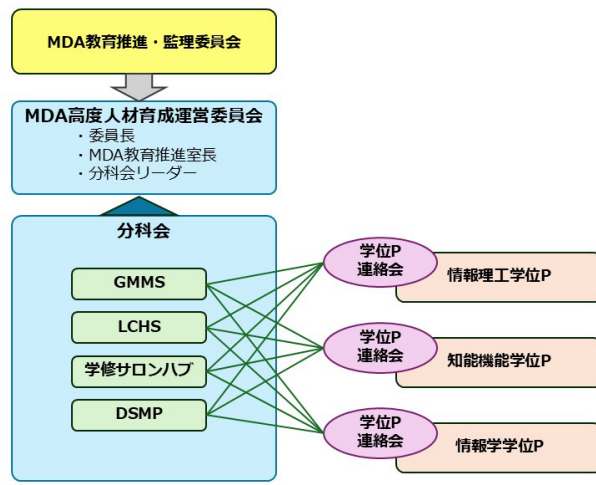
本事業の運営体制は、MDA 高度人材育成運営委員会を中心に企画・立案しながら、4つの分科会が役割に応じて活動するという構成となっている。また、MDA 教育推進・監理委員会（委員長は本学システム情報工学研究群長）および MDA 教育推進本部（本部長は本学教育担当副学長）を設置し、それぞれ本事業に関する審議・承認やアドバイスを行なっている。これらの組織は、定期的な会合を通じて意思疎通や意思決定を行うとともに、関連する3学位プログラムをはじめとする部局と連携しながら事業を推進している。

2024.11.xx

全学が一体となった筑波大学のMDA教育推進体制



2025年度MDA高度人材育成事業組織図



GMMS：グローバル・マルチメンターシステム（Global Multi-Mentor System）

LCHS：「修学×キャリア」ハイブリッド支援システム（Learning and Career Hybrid Support System）

DSMP：博士前期学生向けのデータサイエンス修士プログラム（Data Science Master Program）

新規教員については、実務経験にも考慮しながら採用を行い、ほぼ当初の計画通り確保している。着任後は速やかに、経験や専門分野、研究活動とのバランスなどにも配慮しながら配置を進めている。新規教員の内訳は以下のとおりである。

- 情報理工学位プログラム：教授 1 名（10 月採用予定）、准教授 1 名、助教 2 名
- 知能機能システム学位プログラム：教授 1 名、准教授 1 名、助教 2 名
- 情報学学位プログラム：教授 1 名、准教授 1 名、助教 1 名

【評価】

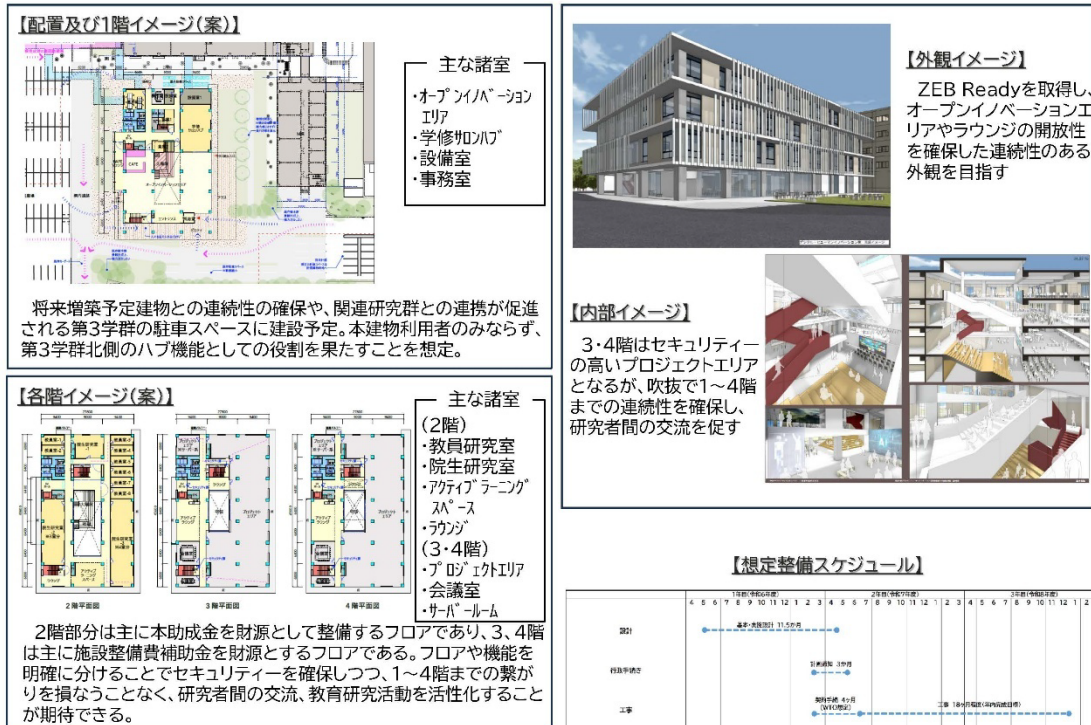
本事業では、MDA 教育推進・監理委員会および MDA 教育推進本部により意思決定・推進体制が整備され、定期的な会合や関連部局との連携を通じて適切なガバナンスが実施されている。また、新規教員の採用においても実務経験を考慮した配置がなされており、教員確保もおおむね計画通りに進められている点は高く評価できる。今後も人事異動等への対応を含めた柔軟な運営体制の維持・強化が期待される。

2) DHI 棟（デジタル・ヒューマンイノベーション研究棟）等の施設整備が計画に基づき着実に進められており、教育・研究活動に必要な機能を備えているか

【現況・自己点検】

令和8年度のDHI棟竣工に向けて、本学の関係部署と調整しながら計画通り進めている。メタバースの活用・導入については、本事業の取り組みの一つである学修サロンハブの分科会に、メタバースの研究を専門とする複数の教員を配置し、先進的な技術を取り入れたVR空間でのワークショップなどの実現に向けて準備を行なっている。

デジタル・ヒューマンイノベーション研究棟 概要



IMAGINE THE FUTURE.

【評価】

DHI 棟の整備計画は施設部と連携しつつ順調に進められており、メタバース技術の教育活用に関しても専門教員の配置を通じて先進的な取り組みがなされている点は評価できる。今後は実践的な教育活動との連携をさらに深化させることにより、施設とコンテンツ双方の充実が望まれる。

3) 学生募集内容および学則改正が適切に実施されており、必要な手続きや関係者への周知がなされているか

【現況・自己点検】

令和7年度入試については、計画通りの定員増で実施し、概ね想定された定員に沿った入学者を確保することができた。一部のプログラムにおいては、選考段階で定員相当の合格者を確保していたものの、辞退者が出たため最終的な入学者数が定員に満たなかったが、全体として質の高い志願者を確保することができた。

- ・理工情報生命学院システム情報工学研究群情報理工学位プログラム（博士前期課程）
入学定員 150 名 合格者数 160 名 入学者 152 名（R6 年度より 34 名増員）
- ・理工情報生命学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム（博士前期課程） 入学定員 135 名 合格者数 142 名 入学者 128 名（R6 年度より 35 名増員）
- ・人間総合科学学院人間総合科学研究群情報学学位プログラム（博士前期課程） -
入学定員 75 名 合格者数 91 名 入学者 82 名（R6 年度より 21 名増員）

また、学士課程から博士後期課程に至る一貫した MDA 教育プログラムの実現に向けて、新たに博士前期課程を対象とした MDA 履修証明プログラムである「データサイエンス・マスター・プログラム（DSMP）」の開講に向けて、新設科目を含むカリキュラム編成の整備を進めている。

【評価】

学生募集においては定員増を計画通り実現しており、また博士前期課程を対象とした新たな履修証明プログラム（DSMP）の設計も進められている。教育目標の明確化および体系的なカリキュラム編成が進められていることは、プログラムの継続的な質向上に寄与するものと評価される。

4) 学外機関との連携を推進するためのシステムや体制が構築され、実効的な連携が可能な環境が整備されているか

【現況・自己点検】

本事業の中核をなす GMMS（グローバル・マルチメンターシステム）、LCHS（「修学×キャリア」ハイブリッド支援システム）の取組みに対し、対象となる 3 学位プログラムの博士前期・後期学生による「利用数」および「実践数」を把握するための計測方法を検討・確立した。令和 6 年度の集計結果集計結果は以下のとおりである。

※ なお、ここでの「利用数」は、学外研究者・技術者から本学の学生に対して行う一方向のシステムの利用（例：セミナーの聴講など）を意味し、また「実践数」は学外研究者・技術者と本学の学生との間で行われる双方向的なコミュニケーションを伴うシステムの利用（例：研究指導など）を表す。

- GMMS：利用率 57.8%、実践率 37.4%
- LCHS：利用率 60.9%、実践率 36.6%

これらは、現行の定義に基づく R6 年度の成果指標（GMMS：利用率 18%、実践率 10%/LCHS：利用率 20%、実践率 10%）をすべて上回っており、各指標を達成している。

学外研究機関との連携については、本学が有する Campus in Campus、国際交流協定などのネットワークを活用しながら、関係強化を図っている。また、グルノーブル・アルプ大学とのダブルディグリー・プログラムなどの枠組みを利用した海外との学生交流の促進にも取り組んでいる。

女子学生確保のため、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムのダイバーシティ推進校会議の担当拠点校として、シンポジウム開催や出前授業を通じた高校生への啓発活動を計画。また、学内では女子学生対象の表彰、女性教員・学生による広報動画制作、アンケート調査や女性向けイベント・パンフレット改善、女子トイレ改修など、多角的な取組みを通じて、女子学生の理系進学と学内定着の促進を図っている。

また、産業界や自治体との連携については、戦略的パートナーシップ協定の締結などを進めるとともに、業界研究セミナーや対話セミナーなどを開催し、社会ニーズに合わせた人材輩出の枠組みの構築を進めている。

【評価】

GMMS および LCHS を通じた実践的な支援体制は、利用率・実践率の指標を上回る成果を上げており、実効性の高い取り組みといえる。さらに、海外大学との連携や女子学生支援、産業界との対話セミナー等、多方面にわたる取組がバランスよく展開されている点は高く評価される。今後も産学官の連携強化を通じた人材育成の枠組み拡充が期待される。